
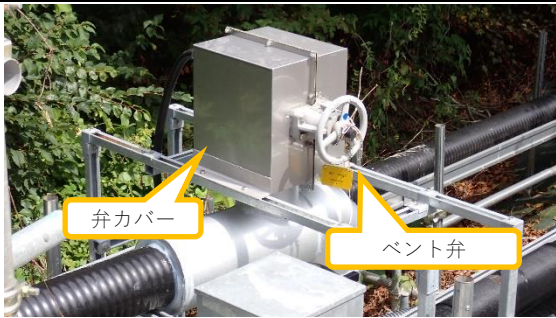
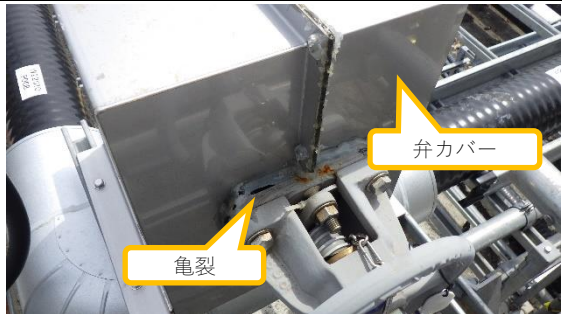



ALPS 処理水希釈放出設備 現地確認結果 報告書(概要)

確認年月日	令和5年9月7日(木)	確認目的	ALPS 処理水希釈放出設備の状況確認 (放出15日目)	
確認箇所	多核種除去設備等処理水希釈放出設備(移送配管ベント弁)			
確認設備	<input type="checkbox"/> 測定・確認用設備	<input checked="" type="checkbox"/> 移送設備	<input type="checkbox"/> 希釈設備	<input type="checkbox"/> その他
確認結果	<p>9月6日、多核種除去設備等処理水(以下「ALPS 処理水」という。)希釈放出設備の移送配管において、屋外ベント弁フランジ部の漏えい警報が発生した。この事象は当日の東京電力の調査により、ALPS 処理水が漏えいしたものではないと判断されている。本日は、この件について東京電力から聞き取り及び現場の状況確認を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京電力によると漏えい警報が発生した弁のカバー外観を確認した結果、防水処置の一部に亀裂があり、防水カバー内部を確認すると、湿潤状態であり、濡れた部分もあったとのこと。</li> <li>ALPS 処理水は逆浸透膜装置で塩分を濃縮した水であるため(淡水化した水は炉注水に利用)、一般的に塩分濃度は高いが、弁カバー内部にあった水の塩分濃度を確認すると、0.00%であり、漏えい警報はALPS 処理水の漏えいによるものではないと判断したとのこと。</li> <li>漏えい検知器が反応した弁の弁カバーや保温材を外し、調査を行っていた。(写真1)</li> <li>他の弁カバーについても確認したところ、一部の弁カバー防水処置(コーキング)に亀裂やはがれのおそれがあるため、東京電力に情報提供した。(写真2)</li> </ul>			
				
	(写真1) 漏えい検知器が発報したベント弁調査の状況	(写真2-1) 他のベント弁の状況(今回漏えい検知器が発報したベント弁とは別の弁カバー)		
				
	(写真2-2) 弁カバー防水処置(コーキング)の亀裂のおそれがある部分 (今回漏えい検知器が発報したベント弁とは別の弁カバー)	(写真2-3) 弁カバー防水処置(コーキング)のはがれのおそれがある部分 (今回漏えい検知器が発報したベント弁とは別の弁カバー)		